

第3回 Jichi Joy Café の結果について

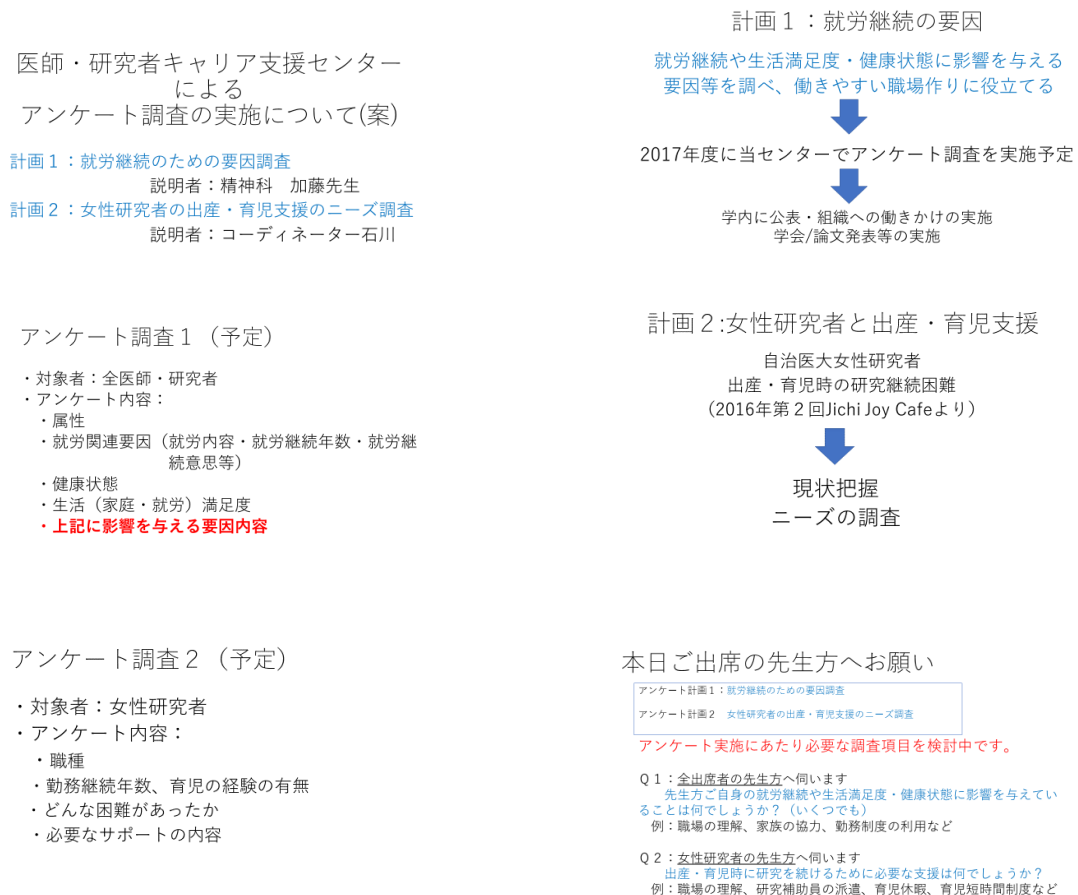
第3回 Jichi Joy Café が平成29年3月10日(金)12:15分から13時30分まで2号館2階の医師・研究者キャリア支援センター会議室において「自治医大女性医師・研究者のキャリアって?」と題して開催されました。

初めに女性医師・研究者の働く環境に関するアンケート(案)の提示ということで精神科の加藤梨佳先生とコーディネーターの石川由紀子先生から説明がありました。

次に自己紹介では 教員、病院本務医師、シニアレジデント、リサーチレジデント、大学院生、医学生と総勢18名より様々な立場からの紹介がありました。最後に解剖学部門教授の野田泰子先生及び小宮根センター長より、大学病院における女性医師・研究者のキャリアについてご講演があり、参加者皆様から多くのご意見が出され、活発な情報交換が出来ました。

皆様大変お疲れ様でした。今後皆様の貴重なご意見を集約できるように引き続き活動を続けていきたいと思っております。

記



これまで

自治医科大学医学部解剖学部門
野田 奏子

これまでの育児

- 28歳で結婚
- 30歳で出産
- 1年間は、夫と別居、実家暮らし
- 大学院入学後、保育園（9時～19時）
- 実家の学区の小学校
- 小4まで、週1回夜のカンファ出席のため実家に預ける

現状

- 一応、東京在住
- 週日単身赴任
- 解剖学実習、発生学、神経解剖学
- 学生生活支援センター副センター長
- 教務委員長

気をつけていること

- できることは自分でする、手を抜かない
- こども>仕事
- 困っている人の世話をやく、人に優しく
- いばらない
- メンツにこだわらない
- 会いに行って直接話す
- 誰のものでもない仕事は自分の仕事

最後にアドバイス？

- 社会とつながっている
- パートナーを選ぶなら、
- 与えられた場所でベストを尽くす
- 周りにはちゃんと見ている

職業

- 小児科医6年
- 基礎系研究者（大学院を含めて）19年
大学院生4年
助手6年（大学院担当）
講師9年
特任准教授半年
- 基礎医学系教授 十9年目

キャリアの転機

- 臨床医から大学院生へ
- 研究者を辞めたくなった時
- 研究者から教育者へ

振り返っておもうこと

- 柔軟にその場その場で社会とのつながりを探る
- 得られる支援を大切に
- 主婦はバッファー：突然の事件担当係
- 切り抜けるほどマルチに
- 女性らしさ

女性の特性（メリット）？

- 変だと思える
- 人と違ってても女性だからと試ってみてもらえる
- 同時進行に慣れている
- 現実路線、現場優先
- 人が喜ぶとうれしい

“キャリアアップ” のために何ができるか？

小宮根真弓
医師・研究者キャリア支援センター

市中病院研修時代

部長

常勤医師
・○○先生
・○▽先生
・□○先生
・小宮根

- ・アットホームな雰囲気
- ・看護師さんが働き者で働きやすい環境

非常勤医師

・○□先生
・▽△先生
・△□先生
・△○先生

主な仕事

- ・外来・病棟
- ・組織係り
- ・レセプト係り

・当直はなかったが、病院の寮が病院のすぐ前だったので、よく呼び出された。



出身大学の医局に戻る

- ・研究への指向性：大学院制度
- ・カンファが充実：クリニカルカンファ、写真検討会、組織デモ、台帳検討会
- ・組織係り
- ・分院での病棟医長、医局長の経験
- ・本院では医学部学生・医学教育を担当
- ・自分の研究について考える余裕ができた

自己紹介

皮膚科
小宮根真弓

市中病院時代の先輩からの教え

- ・患者を診断し治療したら、かならずその結果を確認する。
- ・ありふれた疾患でも患者から学ぶことは多い。

留学

- ・平成5年から平成8年
- ・New York University (NYU)
Department of Dermatology

Dr. Irwin M. Freedberg, Chairman, Professor

Dr. Miroslav Blumenberg, Associate Professor

留学中の皮膚科の臨床

- ・クリニカルカンファ、病理勉強会
- ・レジデントが非常に優秀
- ・Dermatopathologistの存在
- ・NYUは講師陣が充実、毎日小講義
- ・NYUに関連する3つの病棟：Tisch Hospital, Bellview Hospital, Veterans Hospital

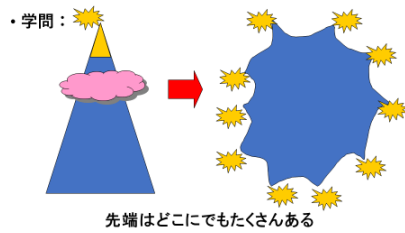




ギリシャ、アテネの学会
(Skin Pharmacology)に参加



研究に対する見方の変化



心がけていること

- 症例を英文論文にすること。
- 研究論文を書くこと。
- 後輩の先生たちを盛り立てること。
- 質問しやすい雰囲気をつくること。
- 勉強会を定期的に開くこと。
- 楽しく仕事をする事。

自分のスキルアップ

- 診療技術の習得
- 診断力アップ
- 海外の論文に目を通す
- 自分でも論文を書いてみる。
- 研究的な内容を考えてみる。



自治医科大学皮膚科

- 小規模な医局
- アットホームな雰囲気
- 臨床を大切にしている
- 症例が豊富
- 地域の診療所、開業の先生との連携

キャリアアップはなぜ必要か？

- 長く仕事が続けられればキャリアアップは必要ない？
- 長く仕事を続けるためには、モチベーションの維持が必要。
- モチベーションを維持するためにもキャリアアップは必要。

余裕ができれば、周りの人のために働いてみる

- 後輩の教育・指導
勉強会を立ち上げてみる。
論文、学会発表の指導をする。
- たまには当直もやってみる。
- 医局員の食事会などを企画してみる。



【一同揃って】